

視点を变えて逆襲だ！

信頼以上に成果を上げる要素はない

成果を得るために必要なことは、「信頼」の構築しかありません。信頼がないままに、何かが起きることはないでしょう。そしてビジネスの世界で生きていくということは、信頼を積み上げていく視点で生きていくということです。

とはいえ、これまで信頼のことなど 1 ミリも考えてこなかった人にとっては、多少理解に苦しむでしょう。なぜなら、この信頼というのは目に見えないので、一見ただけでは信頼があるとか無いとか分からないからです。しかも多くの場合、販売に成功したからと言っても、あなたに信頼があつてのことなのか、会社に信頼があつてのことなのか、社長の人脈なのか、商品の人気なのか分からないのです。

しかし個人で信頼を得てしまえば、今の会社が倒産しようが転職しようが、お客はあなたを応援してくれます。あなたが扱う商品はなんであれ、お客は買うようになります。そのためにも、あなた自身に信頼をつける必要があります。

悲しいけれど、それが現実

ポイントは、「あなた自身」という部分です。多くの人は、この信頼のつけ方を知りません。というかこれまで、信頼のつけ方などついぞ教えてもらったことがない、というほうが正しいのかもしれません。

その証拠に、上司や先輩が定年で会社を去ると、毎年、何百枚と来ていた年賀状が 1 枚も来なくなります。お中元お歳暮などもっての外です。これなどまさに会社の看板、つまり会社の信頼でビジネスを行ってきた証拠です。

会社の看板を持たない「元」部長に、媚を売る人はいません。定年後、お世話になった会社を訪問したところで、あなたに再就職の机を用意してくれるところなどありません。関連会社のアルバイトとして働くことができれば御の字といったところでしょう。

輝かしい人生とは何かというと

一方、定年後も年齢に関係なく第一線で活躍している人もいます。それはずばり、会社ではなく「自分で自分に信頼をつけてきた人」です。こういった人は、年齢に関係なく仕事の

お誘いが次々と舞い込み、まわりが引退することを許しません。

それだけ、信頼を自分につけるということは、ふつうには難しいことなのかもしれません。ではどのようにしたら信頼を勝ち取ることができるのかということですが、それは、成果を出して「実力を証明する」こと以外に考えられません。言い換えれば、そうした実績がない人が信頼されることはありません。

多くの人は、この視点がスッカリ抜け落ちています。そのため、名刺交換の場面で自分の勤める会社が何をやっているかを語る人は多いのですが、これまでの実績を語る人は皆無です。会社が何をやっているかと業種を伝えたところで、相手は興味どころか「だからなんなの?」となるだけです。ましてや、あなたに興味など起きないし、時間の経過と共に忘れ去られてしまうでしょう。

安定した給料をもらっている今こそ、挑戦しろ

そのために、あなたが今すべきことは、「安定した給料をもらいながら挑戦する」ということです。実績をつけるためには、挑戦が必要です。ただ、その挑戦も、安定のないところで行えば、不安で足がすくみ恐怖があなたを襲います。

しかしどこかに雇用されている状態であれば、今の会社のリソースをフル活用しながら挑戦することができます。成果に繋げることも、成果を出すことも、難しいことはありません。なぜなら、リソースの量がビジネスの成否を決めるからです。

荒波にもまれた状態で無謀な挑戦をするぐらいなら、今、船が安定している間に1つでも2つでも多くの挑戦を行い、実績を積み上げておくことです。そうすることで今後、あなたがどのような環境に身を置いたとしても必ず役に立ちますし、その成果を持っているあなたに人气が殺到すること間違いなしです。

何をもって成果と称するのか

このようにいうと、「会社で行った成果は、自分だけのものではないし・・・」という人がいますが、世の中に出ている実績で1人だけでなされているものなど、1つもありません。その証拠に、世の中にはまわりの協力があってはじめて成果となっているものばかりです。しかし、ここで大切なのはその案件に対しどのように、あなたが関わったかということです。

もちろん、その企画を行ううえで、「掃除しかしていない」というのであれば、さすがに自分の実績とするのは問題ありますが、自分が企画を立ち上げたり、先頭をきって指示を出したり、率先して成果に繋がったというのであれば、そこで得た実績を語るのは問題ありません。むしろ、堂々と語るべきです。

つまり、今の会社で出した成果は自分の武器として使うことができますので、これまで手がけてきた案件も再度見直し、自分の実績として語ることはできないかと角度を変えて見

るようにしてください。大谷翔平だって、彼のボールを受けてくれるキャッチャーがいなければ、そして相手チームに強烈なスラッガーがいなければ、そもそも全力投球をすることはなかったでしょう。アレキサンダー大王も愛馬ブケパレスなしに、みずから何万人もの敵陣に一点突破するような戦術を考案しなかったでしょう。

今の境遇には意味がある。それを知れ！

そのうえで大切なことは、「会社はテストするには最高のステージ」だということも忘れないことです。というのも、多くの人が人生を変えたいと望みながらも変えることができないのは、今の会社では本領発揮できないと思いつているから、あるいはちょっとした地位にしがみついているからではないのでしょうか。しかし、どの会社も完璧な環境などありませんし、なんらかの障害や問題があるのはどこも同じです。

ということは、多少の不満と不安はあるでしょうが今の会社の、今のポジションを最高のステージと考え、そこで成果を出すことです。なぜなら、「環境は答えではない」からです。だから成果を出す人は、どんな状況でも成功することができます。

ところが世の中を敵視する人は、どこに行っても不満のネタを探し回るゲスな人生を送るのです。ですから、「あーでもない、こーでもない」と不足している箇所をあげつらうのではなく、足りないものは会社のお金を使って取り揃えるという考えを持つことです。なぜなら、そのほうが時間を短縮することができますし、あなたがほんとうに大切だと考えている第二領域の時間に集中することのほうが大事なのです。

今いる場所で成果を出せなければ、次はない

成功する人は環境に左右されずに成果を出すことができるといわれますが、今の環境で成果を出せない人が、次の場所で成果を出せるかといわれたら甚だ疑問です。なぜなら、「環境が変われば」の「環境」というワードが指すのは、あなたに協力してくれる人のこと、つまり、あなたを信用してくれる人のことです。

だから、今の環境であれば、これまで培ってきた仕事環境つまり人間関係をすべて活用することができるため、成果を出しやすい状態にあるということです。本日私の言いたいところは、このところです。今の環境で成果を出せない人、つまり信頼を得ていない人が、新たな場所に行ったところで他人に信頼されるでしょうか。

映画ベンハーの主人公は王族の皇太子でしたが、政敵に敗れ奴隷船の漕ぎ手に身を落とします。鎖に繋がれ一時も休めばムチで打たれるような劣悪な職場であっても彼は、一切手を抜かずに苦役に耐えて同じ奴隷仲間や船の雇い主にも一目置かれる存在になります。そしてついに彼は、そうした境遇をのり越えて再び富と栄光を手に入れるのです。

以上